

森のようちえん『ぼっち』

自然の中で育む“生きる力”



落葉の上で紙芝居

12月の寒い朝。ぎっしり積もった落ち葉の上に霜が降りました。一面真っ白になった中を、子ども達は長靴でザクザクと音を立てて登園してきます。「今日は真っ白だね。」「葉っぱのアイスクリームだよ。」と子ども達。

「こんな寒い日、子ども達の体を温めてくれるのはお日様の光と焚火の火。野外だからこそ感じる事ができる自然の温もりです。」

森、野原、小川、自然に囲まれたフィールドのすべてが「ぼっち」の家です。雨の日も風の日も日照りの日もそして雪の日も、よほど荒れた天気でない限り四季を通じて野外で過ごします。

歌を歌い絵本を読む。草花のままごとに木の枝の剣で戦いっこ。『ぼっち』での日

常は、風の音や川のせせらぎ、そして小鳥のさえずりが聞こえてくる野山や林の中で繰り広げられます。林の中には木の根や穴があり、いつ足をすくわれるかわかりません。急な斜面では体のバランスをとって足を踏ん張っていないと立っていられません。突然雨に降られることもあります。自然のフィールドや自然物を遊び場や遊び道具にするには、想像して考える力が、そして考えを行動にする力が必要です。

自然の中には実際の体験がいっつもそこにあり、子ども達はその体験を通じ五感を、いえ六感をフルに使います。大人が口と手を出し過ぎない保育の中で、ゆったり流れる時間を友達と感じ考え、一日一日をじっくりと過ごします。そんな日々の保育を通じ子ども達には「生きる力」が育ちます。

さあ、今日はどこに行こうかな？ 森の砂場？ コウモリのトンネル？ トトロの森？ どんぐりの林？ それともそれとも熊の穴？

人と人との温かなつながりが残る自然豊かなこの富士見町で、子ども達の心と体がゆつくりと育まれていくことを願っています。

「お問い合わせ」(62)5505
 (子育て広場A1A1内)

議会傍聴記

いつも感じるのですが、傍聴者が少ないことが気になります。一般の町民は、平日の昼間傍聴に来ることは困難です。自分たちの生活に関わる大切な話し合いが行われている議会なので、もっと多くの人が見ることができると必要だと思います。休日や夜間の開催、ネットやケーブルテレビでの中継等、検討して頂きたいと思います。

細川一哉(若宮)

最初から最後までいたわけではないので正確なことは言い得てはいないと思いますが、女性の少なさに驚きました。現在子育て中ですが、これでは女性や子供の代弁者としての母親の目線の行政は難しそうだなと・・・。

10年先20年先、果たして私は娘や息子に富士見に住んでもらいたいと考えてしまう内容が多かったと感じます。今の私たちの生活も確かに大切ですが、本当に残すべきものが残る町政なのかとても不安に感じます。

S.H(女性・富士見)

町長は、議員の質問に対してはぐらかさず、きちんと答えるべきだと思いました。

Y.K(男性・乙事)

編集後記

予期せぬ衆議院の解散から一転、年も政権も変わった日本は、何処へ向かって動き出そうとしているのか。

経済や原発・TPPと問題は山積している。また、国内では内需が飽和状態にあり、効果的なカンフル剤を求めた国民の選択に「背に腹はかえられぬ」と言わんばかりの選挙結果。政治とは政治家の為になく、真に国民の為にありと認識を変換し、官民一体で国難を乗り切る政治への転換を期待したい。

(平出隼仁)

〈富士見町議会へご意見をお寄せください〉

【No.126】 2013年1月15日 発行

発行:富士見町議会／編集:議会広報編集委員会
 委員長 佐久 祐司 副委員長 平出隼仁
 委員 小池 勇 宮下 伸悟

〒399-0292
 長野県諏訪郡富士見町落合10777
 TEL:0266-62-9403 / FAX:0266-62-9320
 E-mail:gikai@town.fujimi.lg.jp

印刷 (有)富士見印刷